



クリスマス

あと四日でクリスマス。街はどこに行ってもクリスマス・イルミネーションやクリスマスソングであふれている。

国民の1%にもならないクリスマスチャンの人として本当のクリスマスの意味を知ってほしいという気持ちもある。

クリスマスは英語で「キリストのミサ」という意味。単にキリストの誕生を祝うというのではなく、十字架につけられる前に弟子たちと催した晩さん（ミ

サ）。死んでも復活して常に一緒にいるという約束。

これらキリストの降誕・死・復活により、人類に救いをもたらしたことに感謝し、祝う日なのである。

日本の最初のクリスマスは、記録に残っているのはサビエルと一緒に来日したトルレス神父らが一五五二年に山口で開いた歌ミサとされている。

サビエルは、その三年前の一五四九年八月に鹿児島に上陸。その地にしばらく滞在した

ので、その年の十二月にクリスマスをお祝ったものと思われるが、記録に残されてはいない。

記録が残っている一五五二年のクリスマスは、サビエルは中国の上川島で十二月三日に亡くなっており、彼らはそれを知らずに祝った。

当時、クリスマスはナタラ（ポルトガル語で誕生という意味）と呼ばれ、一五五二年のクリスマスは一日に六回の歌ミサがされた。この歌ミサが日本最古のヨーロッパ音楽なのである。

サビエル生誕五百年記念の巡礼団 — 四月一日、サビエル城で



△馬小屋での

誕生V

神のひとり子であるイエスが、人間として最も弱い、幼子としてこの世に遣わされた。それも貧しい馬小屋での誕生。

この出来事の中に、キリスト教信仰の最も大切なものが内包されている。

神と人間との関係、

人は弱く、一人では生きられない、幼子のような存在なのである。

△貧しさの中にV

先日、徳山セントラルロータリークラブの例会で「貧しさの中に...あるもの」と題して話をさせていただいた。フィリピンの貧しいスラムの人たちとの交流

の中で体験したことがある。スラムのボスに「一過性の援助は、かえって私たちを混乱させる。それよりも一緒に座ってマニラ湾の夕日を眺めてほしい」と言われた。

「貧しさ」が、結果的に人との関わりや分かち合うことの大切さ、富む者も貧しい者もともにあることに気づかせてくれる。

私は今も「一緒に座ってマニラ湾の夕日を眺めてほしい」と言われたことが忘れられない。

援助は もちろん必要である。しかし、大前提は「とにもかくもに...ある」ことを忘れな いと言わ

れたような気がする。今、私たちは物質的豊かさの中で、知らず知らずのうちに、他人を必要としない自己本位的価値観を持ち、それが心の荒廃を招いている。クリスマスを通して私も今一度、自分を振り返りたい。これで今年が最後。どうぞ、良いクリスマス、そして新年をお迎え下さい。

（元山口放送取締役ラジオ局長）



主の降誕を待つ木彫りの馬小屋＝下松カトリック教会で